

生徒の運動感覚を養う授業実践

教育実践高度化専攻 教科指導重点コース 造形・創造科学系（保健体育）

福山 斗偉

本研究は、生徒の運動感覚に焦点を当てた授業が、生徒の学びにどのような影響を与えるのかを調査することを目的とした。そして、「生徒の運動感覚を言語化させる手立てを取り入れた授業を行うことで、身体コントロールの改善、運動能力の向上に影響を与えるのではないか」という仮説を立てた。

従来の直接的な技術指導を行う方法ではなく、松浦ら(2017)による「感覚経験型指導法」の考え方を採用し、生徒自身の感覚を主体に授業実践を行った。成家ら(2008, 2013)による「感覚的アプローチ」で用いられている Inquiry Teaching（発問指導法）を用い、生徒が自身の運動感覚を意識化できるよう発問を行った。さらに、付箋とホワイトボードを用い、「助走」「踏みきり」「着地」の観点から運動感覚の言語化と共有を支援した。また、ふきだし法を用い、運動感覚を記述する「ふきだしワークシート」を作成・活用した。これらの手立てを用い、生徒の運動感覚を養う授業実践を行い、その学習過程を明らかにした。